

教育のグローバル化の目標

教育のグローバル・スタンダード

教育の国際競争力の向上

義務教育から大学まで

国の将来の経済発展・国際競争力の保障！？

国の教育政策の方向

経済政策・国際企業と同じ考え・流れ？

教育のグローバル化は、経済のグローバル化と対比すると、よく理解できます。

ボーダーレス化・情報化は、経済だけではなく、教育の世界にも急激に浸透しています。国や地域だけではなく、個人のサ

バイバルも賭けた国際競争力の向上が求められています。本誌で何度も紹介した「大学の国際競争」は、まさに国際企業の戦いと同じです。

しかし、教育には、経済に比べてより長期的な視野が必要です。「百年の計」とは言わないまでも、学力テストの受験者が人材・人財として活躍するのは、10年・20年後です。

フィンランドが世界トップになった途端に、「フィンランド詣」が増えて、日本語に翻訳されたフィンランドの教科書が書店に山積みになっています。教育には、長期的な視野と、場当たりではなく、計画的な教育行政が求められます。

そのために、PISAに参加する世界の多くの国・地域の数が、実施するたびに増加しています。その結果を元に、日米だけではなく、世界の主要国が教育改革を積極的に進めています。

☆

我が子の教育は？

わが子の教育のチョイスは？

1. 国の教育目標に沿って教育
子どもの近い将来の経済的サバイバルのために、国際競争力を身につけさせる。
2. 独自の教育方針に従って教育
子どもに人格・精神的な豊かさを身につけさせる。
3. 二つのバランスをとって教育
現実的に、どんな教育をチョイスを、どう選択するか？
保護者の責任！

税金でまかなわれる公教育（日本では私立学校も含めて）は、国（州）の教育目標、より具体的には教育行政の目標に従って、提供されます。

お子さんが大人になった時「経済的に自立して、サバイブし

ていける」ことは、国民として国の教育方針に従っていくことで、可能だとお考えですか？「我が子の未来につながる教育を国に任せる」ことが出来ますか？もし、100%任せられないなら、どの部分を親としてご自分で担いますか？

わが子の教育を考える時にもうひとつ必要なのは、グローバル化と並行したローカル化、もっとも小さなローカルとしての「我が家の教育・親として望む教育」ではないでしょうか？アンケートの回答によく見られる「思いやり」「正直」などの子どもの人格や精神的な豊かさを育てる第一線は家庭でしょう。学校教育がグローバル化すればするほど、保護者は家庭での教育に目を向ける必要が増えてきます。

現実的には、グローバル化・ローカル化の二つの方向・内容のバランスを取った教育を考えることになります。その判断・決断をするのが、子育て・教育の保護者の責任となってきます。

☆



お知らせ

ブログのご案内 松本輝彦

北米に住む日本人の子どもをテーマに、今年の初めから、2つのブログをはじめました。

「アメリカの教育 Mini Q & A」

ブログ
アメリカの教育
Mini Q & A

アメリカ・カナダ、帰国後の日本での教育についての、みなさんからお聞きした質問に、簡単にお答えするブログです。

毎日、ひとつずつの質問にお答えします。

1月2日から、毎日、続いています。

皆さんからのご質問をいただくことが多くなりました。

「海外・帰国子女教育」

ブログ
海外・帰国子女教育

こちらのブログは、日米の教育に関わるニュースや話題を紹介し、そのテーマについて私の個人的な感想・考え・コメントなどを書いています。

ブログのアクセスの多かった記事を6・7ページに掲載！

参加者からの質問

アメリカの学校で学ぶ、日本の子どもへの影響は？

二つあります。

一つ目は、州の統一テストの受験・結果の影響です。英語の試験問題の受験、授業中の受験勉強などのストレスを子ども達が抱えています。また、これまで子ども一人ひとりを大切に指導し評価してきた方法から、筆記結果が客観的(?)なデータとして英語力・学力の判定などに多用されることです。

二つ目は、筆記テストには直接関係ない学習活動の減少です。その中には、授業内での発言やディスカッション、レポート作成やプレゼンテーションなどが含まれます。これらのトレーニングは、日本の学校教育では得がたい「宝」だと、私は信じています。その機会を失うことは、アメリカの教育を受けるメリットのひとつを失うことになります。

☆

教育フェアへのご参加、ありがとうございました。